

事情聴取調書

- 1 件名 板橋区立ホテル生態環境館について
- 2 被聴取者 蓮根区民事務所長 川平 和彦
- 3 聴取者 総務部人事課長 木曾 博
総務部人事課人事係長 宮川 修一
- 4 聴取日時 平成26年2月26日(水) 10時30分～11時37分
- 5 聴取場所 人事課面談室
- 6 聴取内容要旨

【木曾課長】 定刻になったので始めさせて頂く。これについてはテープで録音している。後程確認して頂くのでご協力をお願いします。

ご存じの通り、ホテル生態環境館についての事実関係を確認しているところである。本人から事情を聴取しているので、その内容を確認することが今日の目的になる。

まず、エコポリでの在任期間を確認する。

【川平所長】 平成19年4月1日から平成24年3月31日の5年間である。

【木曾課長】 この間はエコポリの啓発係長であったということによろしいか。

【川平所長】 その通りである。

【木曾課長】 啓発係長がホテル生態環境館の所管であるということによろしいか。

【川平所長】 その通りである。

【木曾課長】 ホテル施設については、どのような仕事を行っているのか。

【川平所長】 ホテル施設の契約がいくつかあったので、支出契約、館の管理運営全般などを行っていた。

【木曾課長】 契約とは、例えば業務委託などか。

【川平所長】 そうである。

【木曾課長】 それ以外はどのような仕事を行っていたのか。

【川平所長】 ホテル施設の消耗品の注文に対して対応していたり、電気ガス水道等の光熱水費、機械警備など。

大きな契約が1つ、小さな契約が複数あった。大きいイベントの1つとしては、6月に実施するホテルの公開があった。

【木曾課長】 ホテルの公開にあたっては特別な契約は結んでいるのか。

【川平所長】 簡易トイレを借りたり、近隣町会に警備のお願いをしたり、大東文化大学にお願いし、学生ボランティアを募ったりした。これについては4月ぐらいから準備していた。

消耗品としては、トラロープや乾電池、町会に出すお弁当の手配等を行っていた。

【木曾課長】 ホテル施設内の設備について、特別な契約をしたことはあったか。

【川平所長】 ホテルの公開にあたっては、施設内の設備に対して特別な契約をしたということはない。

【木曾課長】 例えば、せせらぎ用の石や飾り付けで特別に対応したものはなかったか。

【川平所長】 それは年間契約でやっていたので、特別な契約をするという事はない。

【木曾課長】 年間契約の内容は何か。

【川平所長】 運営委託、消耗品では石が10種類程度いるということを入約に入れていた。私が在

籍する前から行っていたと思う。

【木曾課長】 契約先はどこか。随契か。

【川平所長】 物によって随契を行っていた。ホテルの育成するためにこれじゃなければいけないと限定されていたので。

【木曾課長】 予算額はどれぐらいか。

【川平所長】 私の在籍していたところで、3500万から3800万程度だったと認識している。

【木曾課長】 それがせせらぎ用の石等のためのものか。

【川平所長】 せせらぎ用の石等、消耗品では700万から800万程度だったと認識している。

【木曾課長】 3500万というのは。

【川平所長】 委託や光熱費等を含めた金額である。

【木曾課長】 消耗品については随契だったか。

【川平所長】 薬品類は随契だったと思う。石は入札だったと思う。

【木曾課長】 年によって業者が変わることがあったか。

【川平所長】 そうである。ただし、石の指定はしていた。

【木曾課長】 一般的な石ではないのか。

【川平所長】 ではない。石の成分の関係で特別な石だったと思う。

【木曾課長】 ホテル施設の担当職員は何名程度だったか。

【川平所長】 最低1人は就いていた。

【木曾課長】 契約の履行確認、搬入確認はしていたか。

【川平所長】 担当職員が現地まで行って確認していた。

【木曾課長】 業務委託について、平成19年からの在任中に内容の変更を行ったことはあるか。

【川平所長】 在任中の5年間、仕様の変更はしていない。

【木曾課長】 契約金額についても変更はないのか。

【川平所長】 変更はない。

【木曾課長】 契約は特命随契だと思うが、上司から見直すよう指示はあったか。

【川平所長】 あった。仕様の中身の検査項目等について話があった。

【木曾課長】 通常は競争入札であるかと思う。上司から随契の見直しの指示がありながら、結果として同じ業者にされているが、それはどのような理由か。

【川平所長】 阿部主事から「ホテルが危機に瀕したときにバックアップ出来る業者じゃないとダメだ」という話があった。

【木曾課長】 「危機に瀕した」とは。

【川平所長】 昔、ホテルの施設がバイ菌に侵されたということがあったと聞いた。それに対してバックアップ出来る業者じゃないといけないと阿部主事から話があった。

【木曾課長】 一般的に、ホテルを扱っている業者が複数あるかと思うが、調べたりはしたか。

【川平所長】 調べはしたが、当時は見当たらなかった。また、バックアップという話があったので。

【宮川係長】 バックアップとは具体的にどういうことか。

【川平所長】 ホテル施設の中で飼えないような状況があったときに、一時的に避難できる環境が必要になる。それが出来るのがその業者であると聞いていた。

【宮川係長】 むし企画はそういう施設を持っているということか。

【川平所長】 持っていると聞いている。

【宮川係長】 それはどこに持っているか聞いているか。

【川平係長】 場所までは聞いていない。

【木曾課長】 むし企画は個人経営である。そのバックアップがあると聞いたのは阿部主事からか。

【川平所長】 そうである。

【木曾課長】 平成19年から業務委託の現場の人員について、変更はあったか。

- 【川平所長】 変更はないと思う。
- 【木曾課長】 何名ぐらいかわかるか。
- 【川平所長】 日によって3名とか2名になっていた。途中からではあるが、佐々木所長という都から来た人がいるが、その時ぐらいから、むし企画から人が何名来て仕事をしたか等の履行確認をし、それを阿部主事が業務日誌に記載するようにした。
- 【木曾課長】 業務日誌にはどれぐらい人が来たか記載があるのか。
- 【川平所長】 私が在籍していた頃は入っていると思う。
- 【木曾課長】 業務日誌について、所長はどれぐらいの頻度で確認していたか。
- 【川平所長】 月ごとに確認していた。月1回である。
- 【木曾課長】 平成19年当時から蜂はいたか。
- 【川平所長】 いたと思う。
- 【木曾課長】 川平所長はどの程度ホテル施設に行っていたか。
- 【川平所長】 月1回程度である。毎週1回は連絡業務があるので、職員の誰かは週1回ないし2回行っていた。ホテルの施設は交換便がないもので。
- 【木曾課長】 当時からボランティアはいたか。
- 【川平所長】 いたと思う。
- 【木曾課長】 メンバーは変わっていないのか。
- 【川平所長】 私が在籍していた期間はほぼ変わっていないと思う。
- 【木曾課長】 当時から蜂のボランティアはいたか。
- 【川平所長】 綾部さんという方はいた。
- 【宮川係長】 駒野さんという方はいたか。
- 【川平所長】 途中から来た方はいるが、名前はわからない。
- 【木曾課長】 蜂の量はどの程度だったか。
- 【川平所長】 そんなに多くなかったと思う。ホテル施設の一角でやっている程度と認識している。
- 【木曾課長】 各時代の所長から話を聞いているが、桑子所長、佐藤課長は「蜂の量は多かった」と言っている。
- 【川平所長】 研修棟というプレハブみたいなどころがあって、そこにいる蜂は多かったと思う。
- 【宮川係長】 そこが出来たのはいつか。
- 【川平所長】 私が在籍する前だった。平成19年3月だったと思う。
- 【木曾課長】 そこを作った目的は何か。
- 【川平所長】 当時の石塚区長より「見学者に対してきれいなところで話すスペースがないため、そのスペースを作ってほしい」という話だったので作ったのだと思う。
- 【木曾課長】 その目的が、実際には蜂を飼育する場所になっていった。
- 【川平所長】 夜の特別公開の時はそこが本部になる。その時は片づけるよう話をしている。
- 【木曾課長】 蜂の量の推移についてはどのような認識であったか。
- 【川平所長】 研修棟の半分程度いたと認識している。そこでは蜂のフェロモンを抽出するために必要であったと聞いている。
- 【木曾課長】 蜂の必要数については聞いているか。
- 【川平所長】 用途については聞いていた。蜂の量については、1匹あたりの蜂から多くのフェロモンを抽出することは出来ないと思ったから、ある程度必要なのかとは思っていた。
- 【木曾課長】 それが研修棟の半分程度であっても、その認識だったのか。
- 【川平所長】 そうである。
- 【木曾課長】 蜂を育てるための餌の調達についてはどうしていたのか。
- 【川平所長】 私が聞いた範囲では、最初は茨城大学から寄付的に貰っていたと聞いている。また中村会長から金銭的なバックアップをしてもらっていたと聞いている。そういうところで調達し

ていたのだと思う。

私が在籍していた後半で、砂糖が欲しいという話があったが「ホタルの餌ならともかく、蜂の餌を買うことはできない」と話した。

【木曾課長】 それはいつのことか。

【川平所長】 私が在籍して2年目の頃ぐらいだったと思う。

【木曾課長】 ホタルの生息数について、エコポリとして把握していたのか。

【川平所長】 毎月確認していた。現場では、孵化、成虫等の数を紙で残していたはず。阿部主事から「抜け殻数から把握が出来る」との話であった。

【木曾課長】 ピーク時は100万匹いるとか、それが蛹化するのは2万匹とかという話を聞いているが、それぐらいの数字であるのか。

【川平所長】 私が大事にしていたのは羽化数であるが、それは1000とか2000程度だったと思う。在籍した5年間の記録は残っているはず。

【木曾課長】 業務日誌とは別にその記録をとっていたのか。

【川平所長】 そうだったと思う。

【木曾課長】 その数は所長まで回覧されていたのか。

【川平所長】 ホタルの公開にあたっては問い合わせもあるので確認していた。区長が出席する行事等では数の把握はしていた。

【木曾課長】 数の把握は阿部主事がしていたのか。

【川平所長】 阿部主事しか出来なかったのだ。

【木曾課長】 どのような方法か聞いているか。

【川平所長】 羽化数については抜け殻が水に浮くので、その数から把握していると聞いていた。

【木曾課長】 確認だが、数については毎月報告があったということでもいいのか。

【川平所長】 そうである。

【木曾課長】 蜂に関して、途中で能登町との関わりがあったかと思うが、その事情は聞いているか。

【川平所長】 能登町から交流の申請があった。その時、蜂を増やしたいという要請であった。その要請について、板橋では貢献出来る内容がなかったので、当時岩倉所長だったと思うが、所長から能登町に正式にお断りの連絡をしていた。その中では、部の中の話し合いもあったかと思うが、私はそこには関与していない。

【木曾課長】 その後、能登町から研修生が来ていたと思うが。

【川平所長】 研修生は来ていた。

【木曾課長】 能登町は蜂について知りたいのに、実際にはホタルに関する施設である。そのことについては議論があったか。

【川平所長】 特段議論はなかった。

【木曾課長】 研修生が来たのは桑子所長の時か。

【川平所長】 所長が誰だったかは覚えていない。

【木曾課長】 事実確認中のため、この場限りにして頂きたいのだが、蜂ボランティアの駒野さんがイノリー企画の代表者になっている。それについては何か知っているか。

【川平所長】 イノリー企画というのがあるのか否かを確認するため、一度ホームページで確認したことはある。

【木曾課長】 その件で阿部主事から相談を受けたことはあるか。

【川平所長】 ない。

【木曾課長】 平成21年7月にホタル施設とイノリー企画で業務提携を交わしている。平成23年4月1日にはホタル施設とイノリー企画と能登町で蜂の売買契約を結んでいる。ただし、ホタル施設は阿部主事の私印で契約を行っている。

【川平所長】 初めて聞いた。契約を結んでいるとは全く聞いていない。

- 【木曾課長】 区の施設を使って、収入を得た場合、歳入として手続きを踏まないといけないと思う。それに関する相談をしたかと聞いたところ「自分は技能系だからよくわからない。ただし、それについては相談したことはある」と言っている。相談を受けたことはあるか。
- 【川平所長】 相談は特になかった。その事自体あってはいけないと思う。
- 【木曾課長】 イノリー企画は能登町から利益を得ており、それを蜂の飼育代にしていたとのことである。これによって区は、資材等で利益があり、3年間で800万の利益があったのでやっていたと主張している。本人は決して自分の懐には入れていないと言っている。
- 【川平所長】 確かに、資材は減らしていった。それは区のシーリングがあったので、現場と話し合っ、蜂のフェロモンが土壌にすごく効くようになったので、除菌のための資材はいらなくなったということで減らした。これで儲けたからという話はなかった。
- 【木曾課長】 いつぐらいのことか。
- 【川平所長】 私が在籍した最後だったと思うので、平成23年度か25年度の予算の事だと思う。300万から400万程度減らした記憶がある。
- 【木曾課長】 減らしたのは消耗器材のところか。
- 【川平所長】 そうである。
- 【豊田主査】 委託料は25年度予算で200万削減されている。
- 【宮川係長】 25年度予算は川平所長が作った予算ではないのでは。
- 【川平所長】 私の時に作った予算である。
- 【宮川係長】 24年3月まで在籍していたら、24年度予算を作るという事だと思うが。
- 【川平所長】 25年度予算を作って出ることになると思う。この件については2年度に渡って予算を削減した。
- 【木曾課長】 金額でいうと300万程度減らしたということか。
- 【川平所長】 概ねそれぐらいだったかと思う。2年間で500万から600万程度だと思う。
- 【木曾課長】 具体的に減らしたのは薬剤とかる過の資材ということか。
- 【川平所長】 そうである。
- 【木曾課長】 蜂を売った利益を歳入にいれるという相談も受けていないということでもいいか。
- 【川平所長】 そうである。売ってはいけないと思う。
- 【木曾課長】 24年2月から静岡県小山町でホテルの水路整備をしているが、それに阿部主事が関わっているということについて聞いているか。
- 【川平所長】 何か所か行っているのは知っているが、静岡県の話は記憶にはない。
- 【木曾課長】 どこかに行っている時は休暇を取って行っていたのか。
- 【川平所長】 特許に関わる件については内規を決めていたと思う。
- 【木曾課長】 内規とは。
- 【川平所長】 作ったはいいが、後からフォローする必要があるときは1回限り行けるというものだったと思う。それ以外は年休を取ってもらっていた。
- 【木曾課長】 ルシオラという業者が施行したのだが、その主任技術者が阿部主事となっている。それについては聞いているか。
- 【川平所長】 知らない。
- 【木曾課長】 平成24年5月10日に5年保障をする旨を阿部主事個人が結んでいる。私たちは阿部主事にそもそも個人が契約を結ぶものなのかと聞いたところ「5年保障はやらざるを得ない。またその旨は川平所長に言っている」と言っている。その記憶はあるか。
- 【川平所長】 記憶はない。もしこの話があったら無理だと回答していると思う。私が在籍する前は、外のせせらぎを作るのに120万の契約があったが、在籍中は1つも無いと思う。
- 【木曾課長】 この5年の保障の中では『板橋区と特許に係る契約が必要になるが、小山町とは特例として、契約しなくても、契約をしているのと同等もしくは同等以上の関係を構築いたしま

す』としているが、これは知っているか。

【川平所長】 知らない。

【木曾課長】 特許の件について、19年に2件あって、それ以外はない。川平所長が在任している時はこれ以外ないと思う。ところが、本人が整理した中では、19年以降も多数関わっていると知っている。これについて、何故特許として取り扱わなかったのかと聞いたところ「特許を申請した14年度までに関わりのある団体とは免除をするというのがエコポリの中に内規がある」と主張している。それについては見たことがあるか。

【川平所長】 見たことはない。

【木曾課長】 それに類似したものはあるか。

【川平所長】 特許を申請する前から手掛けたものに支障があった場合は、それを支援するという話は聞いたことがある。

【木曾課長】 それは誰から聞いたか。何か残っているか。

【川平所長】 残っているとしたら、特許申請時だとは思う。

【木曾課長】 阿部主事から聞いたのか。

【川平所長】 阿部主事からは聞いていない。

【木曾課長】 川平所長の時は、特許に関してあまりやっていないのでわからないかもしれないが、具体的な事務処理を教えて頂きたい。

【川平所長】 まずは現場で特許を実施出来るか確認をする。確認出来れば、業者から特許実施申請書をもらう。それに関しては要綱があると思う。その後、契約書を交わし請求書を発送する。

【木曾課長】 場合によっては免除するということがあると話があったかと思うが、それに関する取り決めはあったか。

【川平所長】 なかったと思う。要綱にも書いていないと思う。もしやるなら別途決裁を取ってやるのだと思う。

【木曾課長】 19年以降もかなりの数をやっているが、それについてホテル施設に何か掲示をするということはないのか。

【川平所長】 掲示はないと思う。

【木曾課長】 在籍していたときに業者とエコポリが関わっていると思うが、それについての連絡体制はどのようにしていたのか。

【川平所長】 例えば、FAXが届いたら、FAXを送る等を行っていた。特許の実施申請ということであれば、歳入が発生するので注意して取り扱っていた。

【木曾課長】 特許には現場確認が必要だと思うが、確認してダメだったという事例はあったのか。

【川平所長】 数件あったかと思う。

【木曾課長】 特別に印象に残っている団体はあるか。

【川平所長】 どの自治体かはわからないが、ホテルの研修棟に現場の地図が貼ってあって、ここはダメでしたという説明を受けたことはある。

【木曾課長】 施設管理について、特別な勤務体制であり、勤務時間帯が遅くなったりすることもあったと思う。それについて相談があったか。

【川平所長】 エコポリに相談はなかったと思う。

【木曾課長】 阿部主事は「電話で相談したが、嫌だとか朝早過ぎるとか言われた。上司に相談したら、それは仕方がないから、わからないようにやってくれ」と主張している。

具体的には、ボランティアの1人に施設の開閉を任せていた実態があった。ホテルの施設に再任用がいるが、その職員にやらせないのかと阿部主事に聞いたら「再任用は任せられない。また本課に言っても対応してくれない」との回答であった。

【川平所長】 記憶にない。

- 【宮川係長】 蜂について、研修棟で蜂が増えたと感じたのはいつ頃か。
- 【川平所長】 22、23年度ぐらいからだと思う。
- 【豊田主査】 イノリ企画について、個人事業の開業の届を出しているが、所在地、連絡先等がホテルの施設になっている。それについては認識があったか。
- 【川平所長】 認識はない。
- 【木曾課長】 郵送の伝票がかなり残っていた。これについて職員から何か聞いたことはあったか。
- 【川平所長】 特にない。蜂については、売っているのではないかということで、1度エコポリに呼び出した記憶はある。
- 【木曾課長】 誰が呼び出したか覚えているか。
- 【川平所長】 確か、佐藤所長の頃だったと思う。その時「そんなことはない」との回答であったと思う。
- 【木曾課長】 その件についてはどのように知ったのか。
- 【川平所長】 『請求します』みたいな通知が宛所なしで区に戻されたことがあった。
- 【木曾課長】 それは何の請求書であったか。
- 【川平所長】 不確定だが、何かを請求しますという通知が区に戻されて、それが総務を介してエコポリに来たと思う。
- 【木曾課長】 佐藤課長の頃であるなら、平成23年度のことか。
- 【川平所長】 確かそうだったと思う。
- 【木曾課長】 その話し合いは佐藤課長と阿部主事2人の話し合いだったのか。
- 【川平所長】 私も立ち会っている。
- 【木曾課長】 それは1度だけか。
- 【川平所長】 そうである。
- 【木曾課長】 それについて何か思い出せないか。
- 【川平所長】 請求書っぽいものであったという認識ぐらいしかない。
- 【木曾課長】 どこに宛てたものかは覚えているか。
- 【川平所長】 ホテル公開の時期だったぐらいの記憶しかない。
- 【木曾課長】 阿部主事を呼び出したとき、阿部主事の見解は。
- 【川平所長】 寄付を頂いていた時のやり取りの書類ということをやっていたと思う。
- 【木曾課長】 その時、発言の妥当性を確認していると思うが、それはどのような判断だったのか。
- 【川平所長】 説明を聞く限りでは、そうなのかと私も所長も思った。
- 【木曾課長】 寄付を受けている時に、相手に請求するというのは。
- 【川平所長】 請求書となっていなかったと思う。
- 【木曾課長】 金銭的なやり取りをしている文面だったのか。
- 【川平所長】 そうである。
- 【木曾課長】 口座番号等入っていたか。
- 【川平所長】 それは入っていなかったと思う。
- 【木曾課長】 発信先は。
- 【川平所長】 ホテル施設であった。
- 【木曾課長】 相手先は覚えていないということか。
- 【川平所長】 そうである。
- 【宮川係長】 その郵便はどうしてエコポリに戻ってきたのか。
- 【川平所長】 わからない。郵便局が間違えたとか思えない。
- 【宮川係長】 封筒がホテル施設でなく、エコポリの封筒だったのではないか。
- 【川平所長】 そうだったのかもしれない。ホテル施設という名称が入った封筒はないので。
- 【木曾課長】 区役所の封筒ではなかったのか。
- 【川平所長】 区役所の封筒ではなかったと思う。

【木曾課長】 その時は納得できる説明があったということでいいか。

【川平所長】 そうである。


【木曾課長】 お伺いした中で、わかったことがあったら教えてほしい。本日はありがとうございました。

本調書は事情聴取の要旨である。

以上、その内容に相違ありません。

平成26年3月5日

区民文化部戸籍住民課
蓮根区民事務所長

川平和孝 

総務部人事課長

木曾 博

総務部人事課人事係長(書記)

宮川 修一

総務部人事課人事係主査(書記)

豊田 岳彦